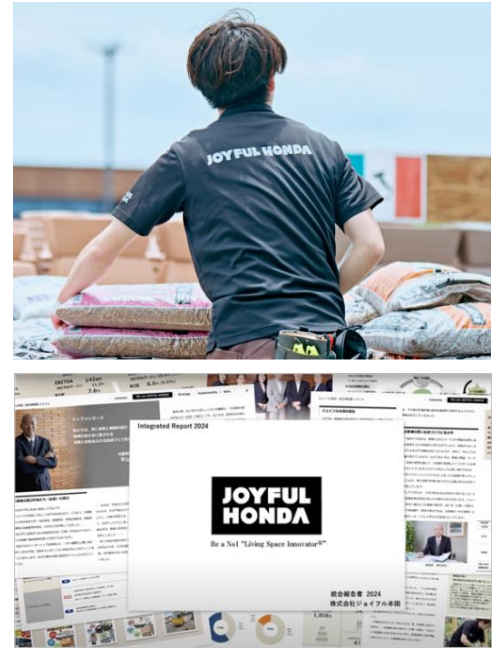


■ストーリー掲載企業紹介

企 業 名	株式会社 ジョイフル本田
ストーリー タイトル	日常も、非常時も「なくてはならない店」に ～ステークホルダーとの対話強化に向けた IR 支援～
【ストーリー概要】 1975 年設立、ホームセンター・住宅リフォーム事業などを手がけるジョイフル本田様。東京ドーム約 5.1 個分規模のニューポートひたちなか店をはじめ、郊外に大型店を多く展開することで全国的に知られ、2025 年に創業 50 年を迎えました。少子高齢化をはじめとした地域が抱える課題は複雑で、関係各所の協力なしに解決することは難しいものです。だからこそ当社が重視しているのは、あらゆるステークホルダーと密につながることです。 当行では、当社の「ステークホルダーとの質の高い対話」に向けた取り組みの一つとして、「統合報告書」の企画・制作の支援をさせていただきました。 当行は今後も「地域の旗振り役」として、ジョイフル本田様と地域社会、企業の連携をサポートしてまいります。	



企 業 名	株式会社 シマ商会
ストーリー タイトル	持続可能な社会を、この南相馬から。 ～サステナビリティ経営支援～
【ストーリー概要】 1975 年に創業し、乗用車をはじめトラックや建設機械など「はたらくクルマ」のリサイクルを主として手掛けるシマ商会様。福島県南相馬市を拠点に全国主要都市へ店舗を展開し、現在では、海外 100 ヶ国以上へ輸出するなど、業界トップクラスの買取・販売力を誇る当社は、2025 年に創業 50 周年を迎えます。 当行では、10 カ月にわたり、会社としての取り組みを整理し、サステナビリティ取組方針を策定。その後、KPI を設定し公表。そのアクションのひとつとして、南相馬市とも地域の課題を共有し、協業をはじめました。さらに、同社は持続可能な社会の実現に向けたさまざまな取り組みをまとめたサステナビリティレポートを発表されました。当行は、サステナビリティ経営の考え方を取り入れるところから、レポートの制作までサポートさせていただきました。 今ある資源で「無限ループ」をつくることに挑戦するシマ商会様。当行は、そうした取り組みに寄り添い循環型社会の実現に貢献してまいります。	



企 業 名	金子金物 株式会社
ストーリー タイトル	～KANEKO NEXT 100～ 次なる 100 年に向けた中期経営計画策定支援
【ストーリー概要】 大正 13 年創業の金子金物様は、感動在庫と自社便配送を強みに県内最大級の建設資材卸売業へ成長し、2024 年に 100 周年を迎えられました。 当社は「ありがたい流れをつくる」という使命を掲げるとともに、「SMILE BASE-笑顔が生まれる基地になる」というビジョンを打ち出し、建設資材の枠を超えた新規事業やユニークな福利厚生に挑戦しています。当行とともに策定した中期計画「KANEKO NEXT 100」で、次の 100 年の物語を紡ぎ始められました。 当行では、中期経営計画の策定にて、現状分析や施策検討のフレームワーク、計数計画をサポート。社員の声を反映させながら「SMILE BASE」というビジョンを事業計画に落とし込み、進捗確認や改善を提案。その後も、IT・デジタル化に向けた業務改善のコンサルティングや外部専門家、地域の最新情報の紹介など総合的に支援しています。当行は、金子金物様とともに次の 100 年の道筋を描きながら、建設資材卸売業の枠を超えて地域社会の未来づくりに挑んでいきます。	



企 業 名	株式会社 藤井商店
ストーリー タイトル	大地の恵みを次世代へ 藤井商店の事業承継と地域協創
【ストーリー概要】 茨城県かすみがうら市で、さつまいも専門卸売業を営む藤井商店様は、創業者である藤井正氏が個人事業主として「移動問屋」を始めたことに端を発し、2008 年に法人化しました。大地の恵みが生んだ美味しいさつまいもを全国へ届けることを使命に、独自のキャリング倉庫を備えて一年中鮮度の高い芋を供給しています。 卸売業者として、生産者・販売先・消費者の三方良しを実践し、収益向上と食品ロス削減を両立させる仕組みや、IT を活用した需要予測や品質管理、若手農家の育成支援などにも取り組む必要があります。次世代の経営者が安心してバトンを受け取れる環境づくりも、地域農業の持続可能性に直結します。 当行は、円滑な事業承継を支援すべく、自社株評価の動向や税制のポイント、株式承継に関する各種スキームのご提案などを実施させていただきました。 次世代へとバトンをつないだ藤井商店様とともに、地域農業の未来を支えるパートナーとして歩みを続けてまいります。	



企 業 名	株式会社 諸岡
ストーリー タイトル	持続的成長に向けたステークホルダーとの対話 ～統合報告書作成支援～
【ストーリー概要】 1958年に土木建設会社として創業し、井戸掘りや耕作地開発向け機械から、油圧技術へ転換して世界初のゴムクローラーと全油圧駆動のトレンチャーを開発した諸岡様。この組み合わせによるキャリアダンプをはじめ、ゴムクローラー式油圧ショベルや自走可能な木材破砕機など当社オリジナルの建設機器で建設・林業分野に革新をもたらしてきました。 当行は、「統合報告書」企画・作成に際し、諸岡様の歴史や強みを深く理解した上で企画の段階 IR 活動の基本となる経営財務データの整理や非財務情報の可視化など、ステークホルダーとの対話を支えるパートナーとして伴走させていただきました。 当行は、諸岡様の「地域と世界の未来を切り拓く新たな挑戦」にビジョンを実現するパートナーとして取り組んでまいります。	



企 業 名	株式会社 倉川製作所
ストーリー タイトル	持続的成長に向けた現状分析支援 「DQC」(Delivery, Quality, Cost)で選ばれるモノづくりへ～
【ストーリー概要】 レーザー加工やロボット溶接など最先端の設備を駆使して多品種少量から量産まで柔軟に対応する総合板金メーカーを目指す倉川製作所様。経営理念に「納期・品質・コスト（DQC）の徹底」を掲げ、どんな要望にも応える体制を整える当社は、ステークホルダーの信頼を得てさらなる成長を目指しています。 お客さまの期待を超える価値を提供し続けるためには、現状に満足しない改善意識と技術革新への挑戦が不可欠と語る倉川製作所様。地元企業として、雇用の創出や人材育成にも責任があり、多様なバックグラウンドを持つ社員が活躍できる環境を整えることが地域全体の魅力向上につながると考えられています。さらに、サプライチェーン全体を意識した品質管理や環境負荷低減、健康経営の推進など、持続可能性に配慮した経営に取り組んでいます。 こうした中、当行は、製品の供給体制維持強化に現状分析支援をさせていただきました。設備投資の償却や借入金のバランス、キャッシュフローのシミュレーションを行い、今後の投資計画や資金繰りの指針を策定。また、情報開示についてもアドバイスをさせていただきました。当行は、多様な顧客ニーズに応える総合板金メーカーとして、ものづくりの未来を切り拓く倉川製作所様と一緒に、地域の未来を明るく照らしてまいります。	

